

第33回新収蔵品展

ふくおかの歴史とくらし

令和3年11月16日(火)～令和4年1月30日(日)

企画展示室 1~4



一得齋高清画 福岡博多鳥瞰図(部分) [購入資料]

開催にあたって

福岡市博物館は、開館の7年前(昭和58・1983年)に博物館建設準備室が発足して以来、考古・歴史・民俗・美術の各分野にわたる博物館資料の収集を続けてきました。寄贈や寄託、あるいは購入によって収集した資料数は17万件以上にのぼります。

収集した資料を後世に確実に引き継ぐとともに、展示や研究に有効活用するため、当館では、新たに収蔵されるすべての資料について調査と整理を行い、そのリストを『収蔵品目録』として刊行しています。また、目録刊行にあわせて、博物館の資料収集活動を広く市民の皆様にご紹介いただくため、『新収蔵品展』を開催し、新たに加わった資料をご覧いただける機会を設けています。

33回目を迎えた今回は、『収蔵品目録』第36号に掲載した平成30年度収集資料1608件の中から「ふくおかの歴史とくらし」に関わる約100件の資料を展示します。

一 福岡藩の文化

慶長5(1600)年の関ヶ原の戦い後、筑前国の領主となった黒田長政は小早川秀秋の居城であった名島城(東区)に入りますが、広い城下町を建設するために翌年から博多の西側に福岡城(中央区)を築きました。

城下町には5万人ほどの人々が暮らし、中には武家だけではなく、学者や絵師、刀工など専門的な役割を担う職人や家臣がいました。例えば、福岡藩

を代表する儒学者の亀井南冥は天明4(1784)年に開学した西学問所(甘藷館)の祭酒(学長)になりました。

また、江戸時代前期の狩野派宗家の絵師・狩野昌運は、福岡藩4代藩主黒田綱政に招かれ、晩年は福岡藩御用絵師を兼務して、江戸と福岡を行き来しました。

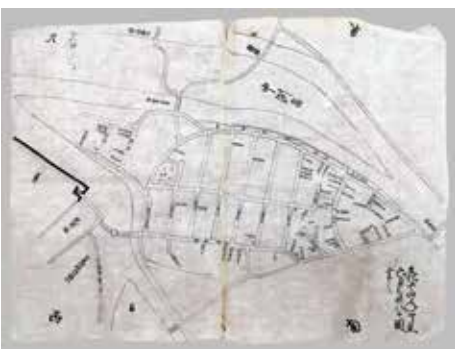
さらに、福岡藩の代表的な刀工の一派をなしていた信国家。信国家は初代吉貞が黒田長政によって城下に招かれ、多数の家臣の刀の需要に応じました。

その他に、福岡城やその周辺で採取した瓦や壺など考古資料からも福岡藩の歴史や文化をうかがうことができます。



(左) 小早川家に仕えた田坂家に伝わる江戸時代後期の桶側二枚胴 [田坂浩資料]

(右) 福岡藩士・小山田家に伝来した甲冑 [小山田榮資料]



(上) 下級武家の居住地などが記された江戸時代の城下町・福岡の周辺部であった春吉の略図 [森幸次資料]

(左) 福岡藩の儒学者・亀井南冥の晩年の書 [松村直寿資料]



(上) 福岡藩初代藩主・黒田長政がお抱え刀工として招いた信国吉貞の作である袋箱 [田畑純子資料]

(下) 信国家に伝来した刀や鐙の押形・図案 [柴田豪次郎資料]



(上) 弘化3年から明治3年まで黒田家の歴史編纂事業に従事した長野誠氏の肖像写真〔長野寛資料〕
(左) 福岡藩の御用絵師・狩野昌運の中年期以降の作「月下雪梅図」〔高橋郁資料〕



(左) 江戸時代末期に福岡藩へ仕えた井上弥内氏に、これまでの働きから鎗穂と黒田家の家紋を描いた紙を下すことを知らせる書類の写〔井上正幸資料〕



(左) 福岡藩・黒田家に仕え、藩の財政に携わってきた石田家に伝わる資料。〔石田敦子資料〕



(左) 福岡城濠周辺で採集された宝暦3年の鯪瓦〔山崎明資料〕
(右) 福岡城の名島門近くで採集された塩焼壺、軒平瓦、軒丸瓦〔平田将成資料〕



博多瓦町・中村家に伝わる近代の達磨図集に収録された「博多女達磨」〔中村泰憲資料〕



昭和戦前期から経師屋を営んでいた藤井家に伝わる明治期の華道や歌琴の教本類〔藤井靖司資料〕



博多古小路町の商家・大山家に伝来した江戸時代の節用集（用語集・国語辞書）〔大山一之資料〕

の様子は活気に満ち溢れています。

福岡を代表する祭礼行事の博多祇園山笠では、水法被を身に着けた男性たちが山笠を昇りて市内を勇壮に駆け巡り、その様子は活気に満ち溢れています。

昭和初期には福岡市とその周辺の名勝を案内する地図、絵葉書、冊子類等が多数刊行され、当時の福岡の風景をうかがうことができます。昭和51(1976)年9月には、天神地区発展に大きく寄与した天神地下街が開業しました。

博多織や博多張子など多くの伝統工芸品が都市の生活を彩り、その製作技術は現在まで受け継がれています。また、現在は製造されていませんが、かつて博多の名産と謳われた博多絞は、戦前まで多くの人がびとに愛用されました。



博多絞の製造販売「武田虎雄商店」で製作された鹿の子絞りで銀杏と葉を配した反物〔武田虎雄資料〕



(左) 博多片土居町の博多織元・中西家に伝わる背面は菊花唐草文様の意匠が施された博多織の名古屋帯〔中西金一郎資料〕



(右) 福岡県指定無形文化財技術保持者の山内謙氏が製作した博多織の袖なし半纏〔吉原秀一資料〕



(左) 明治～大正時代に横浜で営業していたファブル・プラント商会が取り扱っていた懐中時計〔宮本満資料〕



(右) 博多祇園山笠大黒流麴屋町の水法被〔高田進資料〕



(左) 昭和11年に刊行された福岡市周辺の名勝・観光地と、会社企業およびその経営者を紹介する書籍『グレートフクオカ 福岡会社商店案内』〔仲田鞠子資料〕



(中) 昭和10年に発行された電車・鉄道の各駅や神社・寺院・銅像・墓碑・遺跡などが記された福岡市の地図〔小森孝子資料〕



(右) 昭和50年ごろに大野四郎氏がデザインした天神地下街の天井装飾の図面〔大野賢一郎資料〕

二 都市の発展

明治22(1889)年、「福岡」と「博多」

は一体となり福岡市が誕生しました。その後、近隣町村との合併や都市化により、現在160万人を超える人口を抱える大都市に発展しました。本コーナーでは都市の発展を支えた人びとのくらしを物語る資料を紹介します。

三 日々の暮らし

日々の生活のなかでは、多種多様な道具が使われます。日用品や娯楽用具、漁具、信仰用具など、さらには戦時下の生活を伝えるものまで様々です。本コーナーでは、ふくおかの人びとのくらしを伝える資料を紹介します。

福岡市には玄界島、小呂島などの島しょ部があり、漁業を中心とした生活文化が形成されています。収集資料には海産物の採捕・選別道具や運搬具、婚礼などの慶事に贈る熨斗などがあります。

白黒テレビや電気ミキサーなど、昭和30年代には電化製品が普及し始め、人びとの生活が便利になりました。近年では家電も近代資料として収集の対象となってきました。

各種出版された観光案内書や釣りのガイドブックからは、人びとの日常生活に生じる余暇の過ごし方がうかがえます。

信仰用具には、博多区那珂で毎年12月31日の夜に行われる「絵馬上げ」の大絵馬があります。子どもたちが半紙の絵馬と松竹梅の枝を挿した大根掛け声をかけながら地域を回り、那珂八幡宮に大絵馬を奉納しました。

戦時期のくらしを伝える資料として昭和戦中期に出征した兵士が家族に宛てて送った葉書を、台紙に貼り付けてアルバムにしたものがあります。また、昭和戦中期には紙も重要な資源とされ、戦争遂行や国民生活に必要なものへ優先的に配分されました。紙の配分が得られない雑誌などは休刊、廃刊を余儀なくされたことも収集資料から分かります。



(左) 昭和20年に徴兵された人に贈られた、寄せ書きした日の丸旗〔緒方博資料〕



(右) 昭和7年に中国東北部と内モンゴルを領域として成立した満州国の国旗。〔高森雅彦・花資料〕



昭和戦中期に出征した兵士が妻に宛てて送った葉書を台紙に貼り付けたアルバム〔牧千恵子資料〕



(上) 熊江巖氏が製作した昭和戦中期の軍用飛行機(零式水上偵察機)の模型〔熊江隆資料〕

(左) 昭和30年代から40年代ごろに東京芝浦電気作所が製造した家庭用電気ミキサー〔池田美千代資料〕



(上) 華道雑誌『精華』の休刊を伝える昭和19年1月付けの書簡〔浅井孝資料〕

(下) 大正13年に鉄道省が旅行者のために発行した冊子『鉄道旅行案内』〔宮崎安尚資料〕



(左) 昭和55年に開局した香椎オークタウン郵便局で使用されたタイプライター〔鎌田憲彦資料〕



(右) 昭和30年代に発売された松下電気産業のテレビのパンフレット〔緒方博資料〕



(左) 江戸時代に治安維持のため犯人等の捕縛などに使用された長柄の武器である袖がらみ〔松尾宏人資料〕



(右) 昭和戦前期の九州の古武術とその伝来などを研究するために収集した木製の模擬鎖鎌〔河野良春資料〕



昭和36年に西日本の釣社から刊行された釣りのガイドブックシリーズ〔林信博資料〕



西区玄界島で使用されたウニの中身を選別する道具のガゼクリモン。〔木山和子資料〕



昭和34～35年頃に西区小呂島で漁に使用された延縄〔島田澄夫資料〕



西区玄界島で鮑の採捕に用いられていたイソガネ〔宮川安隆資料〕



明治18年に西区玄界島で使用された漁業権を証明する船鑑札〔浦田小五郎資料〕



西区玄界島で使用された運搬具のオイ〔宮川智行資料〕

(左) 昭和51年に那珂八幡宮(博多区那珂)へ奉納された絵馬〔那珂八幡宮氏子総代資料〕



(左) 江戸時代まで大分県杵築市の若宮八幡宮に祀られていた奈良時代の仏像心木〔瓜生松次郎資料〕



(右) 元～明時代に中国で制作されたとみられる石造観音菩薩像の頭部〔榊島利貞資料〕



早良区小田部の寺田家に保管されていた木箱。〔寺田恵美子資料〕



西区玄界島で結婚式などの大きな祝い事の際に用いられたハコフグとタツノオトシゴの熨斗〔松田武治資料〕



(上) 西区玄界島で結婚式などの大きな祝い事の際に用いられたタイヒレの熨斗〔細江松治資料〕



(左) 西区小呂島の池田家に保管されていた万年願歌舞伎の科白帳〔池田シズエ資料〕
(右) 昭和30～40年代に西区小呂島で撮影された万年願歌舞伎の写真〔小田睦彦資料〕



6種類の木綿生地を接ぎ合わせた筒袖の作業着〔荒巻セツ子〕



現在の南区近辺で撮影したと考えられる昭和戦中期の田植えの様子を撮影した写真。〔小川峯登資料〕



(左) 昭和時代に使用された女性用の草履〔菅藤久子資料〕



(右) 昭和24年に佐賀県伊万里市山代町の楠久地区で、初誕生の餅踏みで使用された草履〔川久保恵啓資料〕

福岡市博物館 〒八二四一〇〇〇一
福岡市早良区百道浜三丁目一番一
☎〇九二一八四五五〇一一

- 浅井孝 荒巻セツ子 安東康一
- 池田シズエ 池田美千代 石田敦子
- 井上正幸 衣斐英美 浦田小五郎
- 瓜生忠信 大野賢一郎 大山一之
- 緒方利博 小川京子 小田睦彦
- 榊島利貞 鎌田憲彦 川久保恵啓
- 木山和子 熊江隆 河野司
- 小森孝子 齊藤弘昭 島田澄夫
- 高田進 高橋郁 高森敏博
- 武田真理子 田坂加津子 田畑純子
- 寺田恵美子 仲田鞠子 中西金一郎
- 長野芳久 那珂八幡宮氏子総代
- 橋本照子 林信博 平田将成
- 福地富久枝 藤井靖司 細江松治
- 牧千恵子 松尾宏人 松田武治
- 松村直寿 宮川智行 宮川安隆
- 宮崎安尚 宮本満 森幸次
- 山崎明 吉原秀一

ご協力いただいた方々
(寄贈者名/五十音順 敬称略)

おわりに
本展の開催にあたり、貴重な資料をご提供いただきました皆様、厚く御礼申し上げます。また、ご観覧いただいた皆様には、この展覧会を通してふくおかの歴史と人びとのくらしについて、より一層の関心を寄せていただくとともに、福岡市博物館の資料収集活動に、ご理解とご協力をいただければ幸いです。